【小学生高学年礼拝】

復帰①アダム家庭｜アダム家庭にかけた神様の願い

　今週は、アダム家庭にかけた神様の願いという題目で、原理講論の中の「復帰摂理」のお話をします。

　皆さんも今まで聖書の内容を学んできたと思いますが、神様はアダムとエバを創造され、２人が神の子として成長していくのを願っておられました。しかし、天使長の誘惑で２人は堕落してしまい、神様は悲しみの神様になってしまいました。今日は、神様がどのように堕落した人間を救おうとされたのか、というお話です。

　人間はもともと神様だけと相対するようになっていました。しかし、エデンの園で堕落することで、神様にもサタンにも相対するようになりました。つまり、人間の心は善が大きくなることもあれば、悪が大きくなることもあるようになってしまったのです。

神様だけと相対していた、本来の人間の状態に戻るには、そのために必要な何らかの「条件」を立てなくてはなりません。

例えば、みなさんが友達とケンカし、憎みあうようになったとして、そのような状態から仲の良かった状態にもどるためには、「謝る」など、何らかの条件を立てなくてはなりません。このように、人間が堕落する前に戻るためにも、何らかの「条件」が必要となるのです。

難しいですが、このような条件を「蕩減（とうげん）条件」といいます。

では、神様はアダムとエバにどのような蕩減条件で、救おうとされたのでしょうか。それは、皆さんが聖書で学んだ、アダムとエバの子どもである「カインとアベルの物語」に隠されています。

まず、神様は堕落してしまった本人であるアダムに供え物をさせることによって、神様のもとに連れ戻そうと思われました。でも、アダムは堕落してしまい、サタンとも相対するようになってしまったため、サタンも近くにいます。サタンは「自分もアダムの親だから、アダムを私によこせ」と言うし、神様がアダムを救おうとされても「神にはアダムを救う資格はない」といってサタンがアダムを手放さないのです。

アダムは、神様にも引っ張られ、サタンにも引っ張られている状態になってしまいました。アダムを２つに分けることはできないので、代わりに、アダムの子ども達を神様・サタン側にそれぞれ立たせました。つまり、サタン側に立ったのがお兄さんのカイン、神側に立ったのが弟のアベルでした。アベルとカインは、アダムを２つに分けた立場に立っていたのです。

では、アベルとカインが神様の願いを果たし、神様が人間を救うための「蕩減条件」とはなんだったのでしょうか。それは２つありました。

まず一つ目は、アベルが父アダムの代わりに、神様に信仰を立てることでした。これを何というかというと、「信仰基台を立てる」と言います。

次に二つ目は、アベルとカインが神様を中心に、兄弟仲良く一体化することでした。これを「実体基台を立てる」といいます。

この２つの「蕩減条件」をたてることによって、堕落した人間が神様のもとへ戻っていくことができるのです。

アベルとカインは、実際にはどうだったでしょうか？

聖書の内容をみてもわかるように、アベルは神様に精誠こめて羊をささげました。ですので、１つ目の条件である、信仰基台をたてることには成功したのです。

一方、実体基台の方が問題でした。お兄さんのカインは、神様が自分の供え物は受け取らず、弟のアベルの供え物だけを受け取っている姿をみて、寂しい気持ちになり、怒りがわいてきて、サタンの心でアベルを殺してしまい、実体基台をたてることができなかったのです。

本当は、カインはアベルに「本当によかったね。」と拍手し、弟のアベルも「お兄さん、どうもありがとう。でもこれは、僕が偉いわけでもなく、お兄さんにお世話になったおかげです。ですから、神様から祝福があったら、全てお兄さんに差し上げます」と言っていたら、２人は手をつないで神様のところへ行ったかもしれません。そうなれば、アダム家庭からサタンはいなくなっていたのです。

こうして、アダム家庭を中心とした復帰摂理は失敗に終わってしまったのです。そして、また、罪をもった人類がカインから生まれてくるようになってしまいました。

　アダム家庭の次は、ノア家庭を中心として神様はもう一度、人間を救おうと挑戦されるのです。そのお話は次回となります。